

令和 7 年度 学校関係者評価 報告書

学校関係者評価委員会

評価対象期間

自：令和7年4月 1日

至：令和8年3月31日

令和8年 8月 31日



1. 学校関係者評価の目的

学校関係者評価は、アーツカレッジヨコハマと密接に関係する学校外関係者が、アーツカレッジヨコハマの実施する自己評価結果を踏まえた教育活動、学校運営等に係る現状と課題を共有し、今後の改善方策等について助言等を行い、広く公表するとともに、アーツカレッジヨコハマが自己評価の改善方策の検討においてこの助言を活用し、当該年度の重点目標の設定や具体的取組の改善を図ることを目的とする。

2. 学校関係者評価の方針

学校関係者評価は、「私立専門学校等評価研究機構 専門学校等評価基準」の評価項目を使用して実施した自己点検・自己評価の結果を基に、「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。また、評価結果の公開は、アーツカレッジヨコハマWebサイト、広報誌等の刊行物への掲載などの方法をとるものとする。

3. 学校関係者評価委員（敬称略）

学校関係者評価委員			
氏名	所属	役職	分類
福本 高宏	一般社団法人日本ビジネス能力認定協会	理事	業界団体
川原吹 亮	株式会社ビーダッシュ	代表取締役	デザイン業界識者
小倉 和也	株式会社 OKEaze	代表取締役	IT・ゲーム業界識者 (卒業生)
比留間 英司	相鉄ホテル株式会社(横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ)	常務取締役	ホテル業界識者
中村 麻美	学校法人情報文化学園アーツカレッジヨコハマ	理事長	
藤井 路子	学校法人情報文化学園アーツカレッジヨコハマ	校長	
田中 友之	学校法人情報文化学園アーツカレッジヨコハマ	次長	
伊藤 淳	学校法人情報文化学園アーツカレッジヨコハマ	部長	
黒田 宗巳	学校法人情報文化学園アーツカレッジヨコハマ	次長	
大矢 貴浩	学校法人情報文化学園アーツカレッジヨコハマ	課長代理	
権守 正樹	学校法人情報文化学園アーツカレッジヨコハマ	課長	

4. 学校関係者評価委員会実施日時

日 時： 令和 8 年 7 月 2 9 日（水） 11：00 ～ 14：00

場 所： 学校法人情報文化学園 アーツカレッジヨコハマ E v o ルーム

5. 学校関係者評価委員会次第

- (1) 開会（配付資料確認）
- (2) 理事長挨拶
- (3) 校長挨拶
- (4) 出席者紹介 学校関係者評価委員 アーツカレッジヨコハマ教職員
- (5) 令和 4 年度自己点検・評価結果の説明と評価
 - ① 教育理念・目的・育成人材像等
 - ② 教育課程・教育の実施・学修成果
 - ③ 学生支援
 - ④ 学生募集
 - ⑤ 教育実施組織・教員
 - ⑥ 教育環境
 - ⑦ 教育活動の基盤と改善・向上の取組
 - ⑧ 財務
 - ⑨ 法令等の遵守
 - ⑩ 社会貢献
- (6) 意見交換および令和 7 年度重点課題策定
- (7) 令和 7 年度学校関係者評価委員会総評
- (8) 令和 8 年度重点課題

6. 評価方法

令和 7 年度の自己点検・自己評価評報告書を基に、現状を把握、基準大項目の自己評価結果に対し下記のポイントに留意しながら評価をおこなった。

- (1) 自己評価の結果の内容が適切かどうか
- (2) 自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
- (3) 学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか
- (4) 学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか

7. 令和7年度 重点課題対応結果

学校関係者評価委員会で策定した重点課題の対応結果は下記の通りである。

重点課題1 年度方針である「対人調和力の向上」各部署の2年目の目標達成。

対応結果： 年度方針である「対人調和力」について各部署が考える対人調和力の向上をしっかりと意識して年間の目標を達成するように心がけた。さらにお互いの考えや意見をしっかりと聞き、意見を出し合う組織作りの強化を図った。

重点課題2 広報戦略において新たな取り組みを入れる。

対応結果： 媒体別に広報戦略の見直しを行い、ホームページのリニューアルを行った。またアドワーズ広告の見直しを図り、パンフレット制作においても強化すべきポイントを絞った。

重点課題3 人事評価制度と研修体制の仕組みを検討する

対応結果： 2023年度よりリーダー研修を実施し、今後の学校運営の基盤となる話し合いを行ってきた。また今後は評価制度と研修制度がリンクできる仕組みを構築していくことが課題であり、2025年度においては人事評価制度に対する見直しを図るため人事や労務管理に関するセミナーに参加した。また初めて幹部のみでの研修を実施した。

【総評】

学校の運営は非常に良い方向に向かっていることがわかる。評価も厳しめであると思うが、今後も高等教育機関として進化していく必要がある。また日進月歩する時代の中で、3年後は何を教えるべきか、5年後何を提供すべきかを考えてカリキュラムに反映することが大切ではないか。さらに留学生の支援において、今後も企業との情報共有を図り社会で活躍できる人を育てていくことが大切では無いかとのご意見をいただいた。

8. 令和7年度重点課題

- ① 「対人調和力の向上」3年目の各部署の目標の達成
- ② 教育環境の整備
- ③ 研修制度と人事制度の構築
- ④ 中長期計画を見据えた新たな事業戦略の計画

以上